

令和元年度 学研フォーラム



実践レポートⅠ 『主体性と向き合った4年間を振り返って』 長崎県立諫早高等学校



長崎県立諫早高等学校の紹介

併設型中高一貫校（内進3回生まで高校卒業）

1学年＝内進120名＋高入160名＝280名

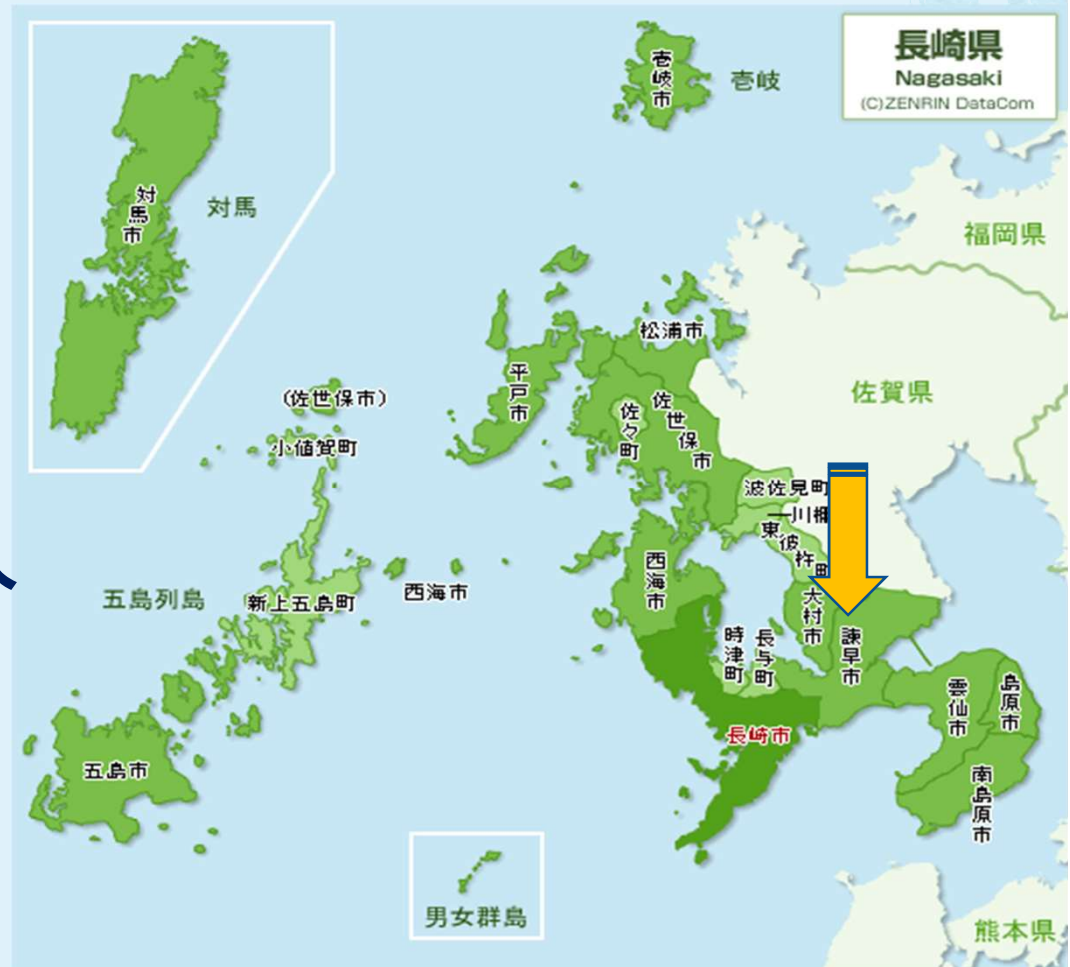
創立109年

校訓・・・自立創造

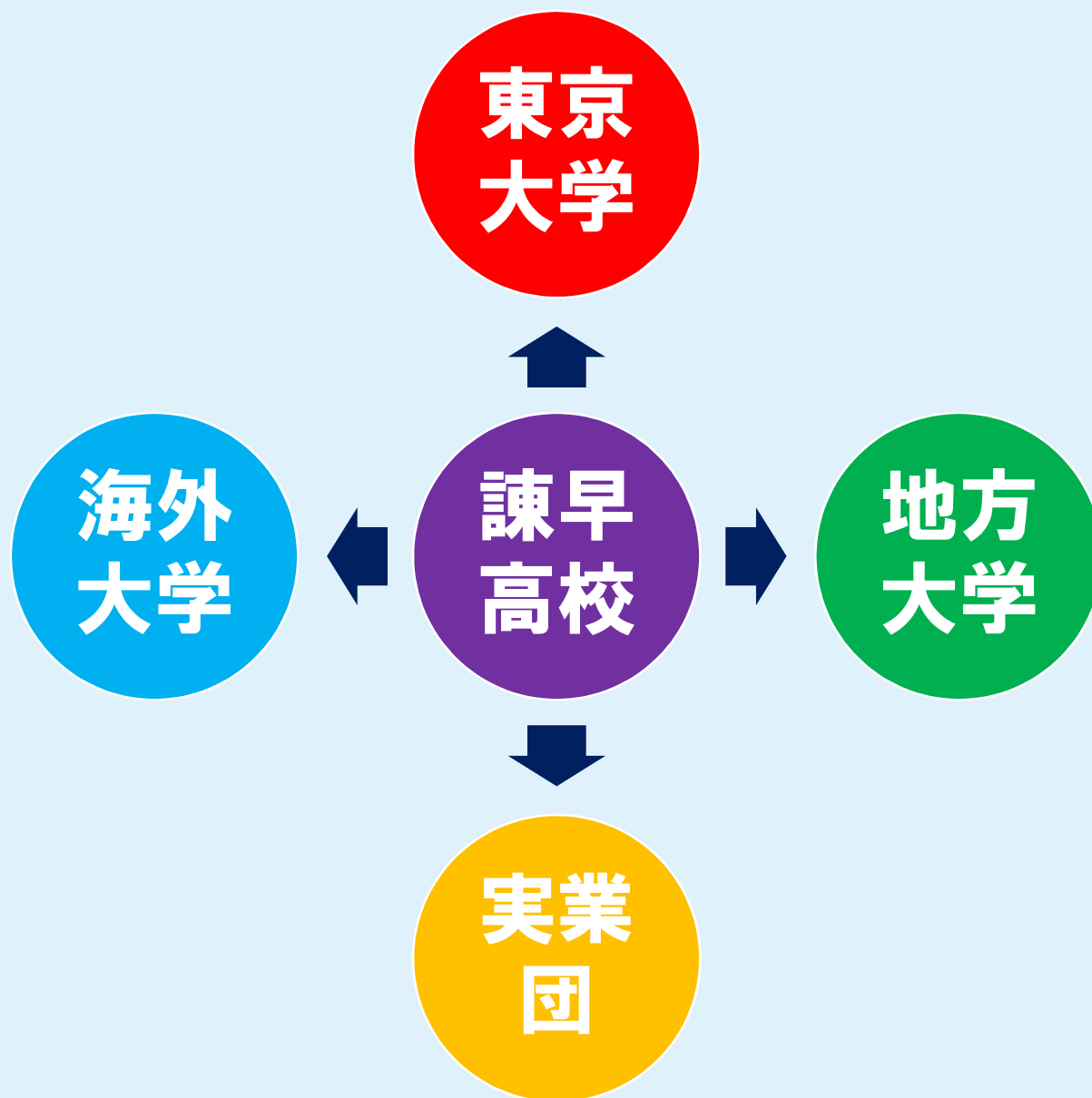
所在地・・・諫早市

人口＝約13万5000人

Vファーレン長崎本拠地



進路の多様性が学校に活力を与える。



主体的学習者を育成するために。

- ◆ 自由時間を増やす。拘束時間を減らす。
つまり課題、課外、テストを減らす。
- ◆ 自由な時間を主体的に活用するための「新しい学び」を提供する。
- ◆ ふり返しシステム（PDCAサイクル）を開発する。

早朝課外の廃止
休日課外の軽減
校外実力の軽減
特別学習の自由化
課題の精選
学習合宿改革

◆希望者対象イベント

- ・グローバル講演会
- ・東大寺子屋
- ・医学部勉強会
- ・ワールドカフェ

◆全員対象イベント

- ・C D A 学習
- ・課題研究
- ・Brush-upタイム

◆P D C A ツールの開発

- ・志手帳（計画・メモ・ふり返し）
- ・ポートフォリオ（小さなふり返し）
- ・ループリック評価（大きなふり返し）

諫早高校生の行動目標



主体的学習者を育成するために。

- ◆ 本人裁量時間を増やす。拘束する時間を減らす。
つまり課題、課外、テストを減らす。
- ◆ 自由な時間を主体的に活用するための「**新しい学び**」
を提供する。
- ◆ 振り返りシステム（P D C Aサイクル）を開発する。

諫早高校の空気を換えよう。

グローバル講演会

グローバル講演会と従来の講演会の違い

講演で聴いたことをもとに、いろいろな人と対話し、自分事にする。

ゲストは、企画チームの一員。今後、諫早高校のサポーターになってもらう。

1日で終わるイベントにしない。CDAや課題研究にもつなげていく。

グローバル講演会の1日

9:00

• ゲスト本校入り

10:00

• **グローバル講演会**開始

12:30

• ゲストとランチタイム

13:30

• **ワールドカフェ**開始

16:30

• ゲストへ本気の質問コーナー

17:30

• 企画チームとKTPふり返り

グローバル講演会の教育的効果 ～企画チームの仕事～

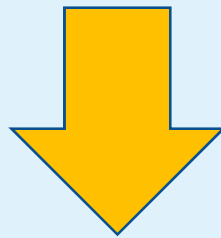
- ・テーマプレゼン、ゲストプレゼン
- ・依頼文の作成→思いを伝える文章
- ・広報活動→惹きつけるポスターの作成
- ・事前学習→話題提供、問題意識づくり
- ・講演会前説→聴衆を惹き付ける3分のプレゼン
- ・講演会后説→究極のアドリブ
- ・ファシリテーター→講演内容を自分ごとにする。
- ・ふり返り→掲示物による共有。

グローバル講演会の教育的効果

～全校生徒にとって～

- 大学で学ぶ意味や職業観をつくる。
- 課題研究やC D Aの深まり、ネットワークの広がり
- プレゼン資料の作り方、聴衆を引きつける話し方
- もがき、悩む大人の姿を知る。
- 失敗を恐れない。失敗から学ぶ姿勢
- 人の巻き込み方（コラボレーション）
- 日本人としてのアイデンティティ
- グローバルという言葉の本質を考える

日本語の総合力を育成する。



C D A 学習

Comprehension(理解)

Discovery (発見)

Ambition(大志)

CDA学習

【目的】

- ・志望理由書や小論文を通じて複眼力や表現力を養う。

【時間】

- ・早朝のBrush-upタイム（15分×2日）
- ・土曜課外（50分）
- ・夏冬課外（50分）

【内容】

- ・新聞を使って教員からの問題提起（学年共通）
- ・グローバル講演会テーマ学習（1年・2年）
- ・APを読み解こう（2年）
- ・クリティカルシンキング対話（2年・3年）



平成三十一年度 長崎県立諫早高等学校

推薦入学者選抜 合格内定者用課題

◆ 諫早高校の「学び」

諫早高校では、変化を続けて予測不可能な未来を生きていく力を身に付けるために、単に知識を身に付けるだけでなく、「グローバル講演会」や「CDA学習」など、学んだことを総合して考え、社会を生きる自己を自覚する学習にも力を入れています。

この課題には、「CDA学習」の教材を主に掲載しています。皆さんはこの課題を通して諫早高校の学びを体験し、入学へのしっかりとした準備をしてください。

この課題には、「ただひとつの正解」はありません。豊かな知識と理性的な判断によって、多様な「答え」が考えられます。そして、それは決して頭ごなしに否定されたりはしません。難解なテーマについて、「答えが分からない」と空欄にすることなく、じっくり調べ、考え、あなたなりの「答え」を書いてください。

〈課題の内容〉

- 第一回 感想を書こう
- 第二回 発想力を豊かに
- 第三回 アイデアを書こう
- 第四回 要約力をつけよう
- 第五回 論理的に考えよう
- 第六回 意見文を書こう
- 第七回 クリティカルな見方（批判的思考）を知ろう
- 第八回 学習した知識をもとに社会を考えよう

〈課題提出日〉

三月十八日（月） 合格者登校日

受付で提出してください。

受験番号	中学校	氏名
------	-----	----

課題研究（探究）

～ 0 を 1 にする～



- ・ 1 年
- ・ 2 年
- ・ 3 年

課題研究オリエンテーション・テーマ決め
課題研究（修学旅行班活動とも連携）
文化祭でのポスター発表
課題研究発表会（分野→学年）
ループブック自己評価＋論文作成

課題研究（探究）

目指すべきレベル

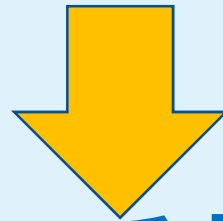
- ・好きなこと→課題解決、価値創造→進路決定
- ・問題提起で終わらない。
- ・社会と関わる。（ネットと自分達で完結しない。）
- ・データの信憑性を考える。
- ・出典元の書物をしっかり読む。
- ・最後は、ひとりで論文！！

主体的学習者を育成するために。

- ◆ 本人裁量時間を増やす。拘束する時間を減らす。
つまり課題、課外、テストを減らす。
- ◆ 自由な時間を主体的に活用するための「新しい学び」を提供する。
- ◆ **ふり返しシステム（PDCAサイクル）をつくる**

振り返りシステム

(P D C Aサイクル)



志手帳

ループリック評価

キャリア検討会 & 面談

志手帳（アナログ振り返り）

- ◆ 諫早高校生の使いやすさを追求し、**生徒たちのアンケートをもとにコンテンツを決定**
- ◆ 今後は、作成から使用手引きまで、生徒たちが行うように企画中。

【コンテンツ】

- ・学校年間行事 ・月間、週間スケジュール表
- ・定期考査前14日間計画表 ・Brush-up計画表
- ・講演会ふり返しシート ・対話振り返りシート
- ・校外活動の記録 ・面談の記録 ・大学調査の記録
- ・志望理由書ワークシート ・部活動大会振り返り

ループリック評価表による自己評価

観点	S	A	B	C	自己評価
授業	各教科の授業内容を十分に理解し、授業の中では、より高次の学習である「質問する。」「話し合う。」「実習する。」「人に教える。」活動を積極的に行うことで、しっかりと習得できた。 結果として、自己目標を超える成果を残すことができた。	各教科の授業内容をほぼ理解し、授業の中では、先生の話をよく聞き、わからないことは、先生や友人に質問するなどして、難しい問題や課題にもチャレンジした。 結果として、自分の目標と同程度の成績を残すことができた。	各教科の授業内容で理解できないこともあったが、自分でふり返ったり、質問することで、何とかついていくことができた。授業の内容はおおむね理解できた。 自分が目標とする成績には、わずかに及ばなかった。	各教科の授業内容に理解できないことがあったが、わからないことをそのままにしていることが多く残った。 自分が目標とする成績には大幅に及ばず、満足できるものではなかった。	
家庭学習	長期的、短期的学習計画を主体的に立て、毎日欠かさず、予習、復習、課題に加え、自分の苦手な教科へのテーマ学習も積極的に行った。	指示された課題などの意義を理解し、毎日、自分の成長のために積極的に取り組んだ。課題が少ない日であっても、3時間の学習を継続して行った。	指示された課題などは、おおむねやり遂げることができた。 学習時間は、課題などの量により変動があった。	指示された課題などができないことがよくあった。計画を立てずに学習をしたため、学習の取り組みが日によって不安定であり、学習時間が全くない日も時々あった。	
総合的な学習の時間	活動の意義や目的を理解し、積極的に活動した。活動では、興味、関心があることだけではなく、知らなかった、体験したことがなかった分野についても積極的に学び、対話により自己の可能性や選択肢を広げることができた。ポートフォリオにより、自己を振り返ることで成長につなげた。	毎回、指示された活動に真剣に取り組んだ。周囲との対話が、自己の可能性を広げたり、見識を広げることを実感した。活動をポートフォリオにより欠かさず残すことができた。	毎回、指示された活動については、真面目に活動し、活動履歴も欠かさず残した。	指示された活動に対しても積極的ではなかった。活動履歴も、十分に残していない。	
学校生活	時間や規律を守ったり、自分に与えられた役割を果たすだけでなく、学校や学級をよくするために、新たな企画や活動に主体的に参加した。	時間や規律を常に守ることができた。また、自分に与えられた役割は十分に果たすことが出来た。また、集団の一員として協調性を持って活動することもできた。	時間や規律は、おおむね守ることができた。周囲に左右されず、自分の良識に従い行動できた。	時間や規律を守れないことが多かった。	
部活動・課外活動	自己を成長させるために、テーマや目標を設定し、毎日、積極的に活動した。また、周囲との対話により、リーダーやフォロワーとして、部や団体を引っ張ることができた。	課外活動が行われる日には毎日参加し、自己の成長のために努力した。また、集団のために、与えられた役割を果たした。	課外活動には、可能な限り参加し、自己の体力や技術が向上しつつある。	課外活動は、十分なものではなかった。	
主体性	志手帳を毎日、有効に活用するだけでなく、活用方法を自分なりに工夫し、自己管理に努めた。また、常に問題意識を持ち、自分の意志で、何事にも挑戦した。	志手帳を継続して活用しながら、自己管理能力を高めることができた。自分の意志で取り組んだことが、1度以上はあった。	志手帳は、指示された時には着実に活用し、自己を振り返った。そのことで、自己管理ができるようになったと感じている。	志手帳を活用することがほとんどなく、主体的に行動することはほとんどなかった。	
コラボレーション	異年齢や異性、校外など、活動の範囲を積極的に広げ、対話を通じて、一人では、果たすことができない成果を残すことが出来た。	気心の知れた仲間やチームメイトとも、問題意識を持ち、新たな課題解決に取り組んだ。その結果、少しずつ集団が成長していると感じている。	集団で行動することを求められた状況では、周囲と協調して活動することが出来た。	誰かと協力して行動する機会はほとんどなかった。	
チャレンジ	自分の苦手なこと、未体験のことに、校内外を問わず積極的にチャレンジした。その結果、自分の成長を実感するとともに、新たな課題を見つけ継続的に活動した。	周囲にすすめられ、自分の苦手なこと、初めての事に1度はチャレンジしてみた。継続は出来ていないが、またチャレンジしようという思いがある。	今まで行ったことのないようなことにチャレンジする機会はなかったが、今後、チャレンジしたいと考えているものがある。	チャレンジしたいことが見つからなかった。	

キャリア検討会によるシェア

- ・生徒の偏差値には目を向けず、生徒のキャリアを検討していく会。→面談で生徒とのシェア

【使用データ】

- ・志望校（推移）
- ・資質能力ベースでのアセスメント評価（推移）
- ・本校ループリックによる自己評価（推移）
- ・志望理由書
- ・エビデンス（表彰歴・役職歴・活動履歴・行事参加歴）
- ・課題研究テーマ
- ・外部英語検定スコア

チャレンジする諫高生

- ◆ トビタテ留学ジャパンに3名が合格
- ◆ 数学オリンピック本戦出場
- ◆ 各種英語スピーチコンテストで活躍
- ◆ JENESYSによる海外研修
- ◆ 地域を盛り上げる学生団体を結成
- ◆ 国連で英語による平和スピーチ
- ◆ 県外の小学校で平和学習の授業をする生徒

理想のチーム」へどう行動？

県立諫早高（原田尚之校長、83歳）でこのほど、部活動の在り方をテーマにした講演会があった。広島県立安芸南高サッカー部の畑喜美夫監督が提唱した「ボトムアップ理論」に基づき、生徒が主体となるチーム運営について、諫早高と同付属中の生徒や教師らが考えた。

同理論は、生徒が意見を出し合い、練習内容や出場選手を決めるなどしてチームの意思決定に反映させる。諫早高は本年度、部活動に原則として週2日以上以上の休業日を設けている。講演

諫早高で講演会



宇野さん（左）と
理想のチームについて
話を聞いた生徒たち
と諫早高

部活動・学習 生徒が主体に

（17）と生徒会が企画。安芸南高サッカー部元主将で同理論の普及活動をしている宇野広太さん（19）と環太平洋大2年生を講師に招いた。宇野さんは「監督主導のトップダウン方式に比べ、

選手が自ら行動しなければならぬため、人間力が鍛えられる」と説明。生徒たちは、グループごとに「理想のチームについて討論、部室の整理整頓を上級生が行動で示す」「ミスの原因を皆で考え、共通理解を深める」などの意見を、模造紙に書き出した。

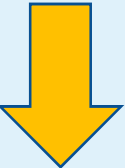

後田さんは「試合に出られなくても、戦術分析などで貢献できればチームで存在価値を感じられるという説明が心に残った。各節で良いと思った部分を取り入れ、生かしてもらえば」（柴田英樹）

**令和元年度 生徒企画
「学習する部活動」**

**いま、社会問題にもなっている部活動。
部活動の在り方を生徒自らが考える。**

まとめとして・・・

学校改革の流れ（諫早モデル）

- ・生徒が変わる＝進学先が変わる。文化祭が変わる。
体育祭が変わる。部活動が変わる。

- ・卒業生が変わる＝退学者減少。インターンシップ増。

- ・入学生が変わる（地域の見方が変わる）
 - ＝新たな地域からの入学者
 - ＝面接試験にて
 - ＝学校評議員会にて
- ・教員はが変わるのは、もう少し先……

改革に伴い、変わってきた教員の役割

- ◆ 生徒と社会をつなぐ、生徒と生徒をつなぐ役割
- ◆ 生徒が「してきたこと」と「進路」をつなぐ役割
- ◆ 生徒の「思い」や「してきたこと」をメタ認知させる役割
- ◆ 「教科」と「キャリア」をつなぐ役割

諫早高校における学校改革の変遷

- I **新たな言葉（共通言語）** が生まれる。
- II それが当たり前になり、学校の**文化**となる。
- III それが諫早高校生の**アイデンティティ**になり、母校愛や誇りが生まれる。
- IV そのアイデンティティを持って**グローバル社会(まずは大学)**へ旅立つ。

いまだ、残る課題

主体性は、本当に身についたのか？

そもそも、主体性は評価できるのか？

ご清聴ありがとうございました。